

4. 本文 46 ページから

面源負荷とその削減対策に関する政策課題研究

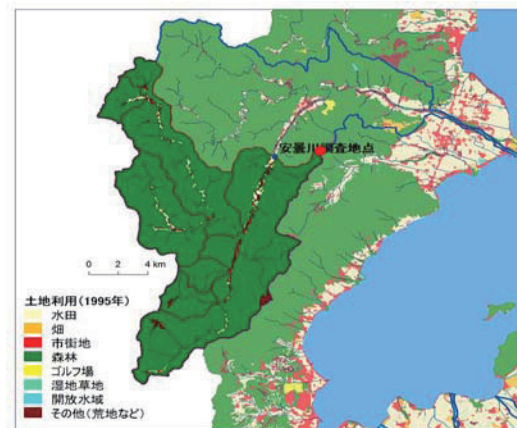


図1 安曇川中流部の調査地点位置
および安曇川の土地利用状況

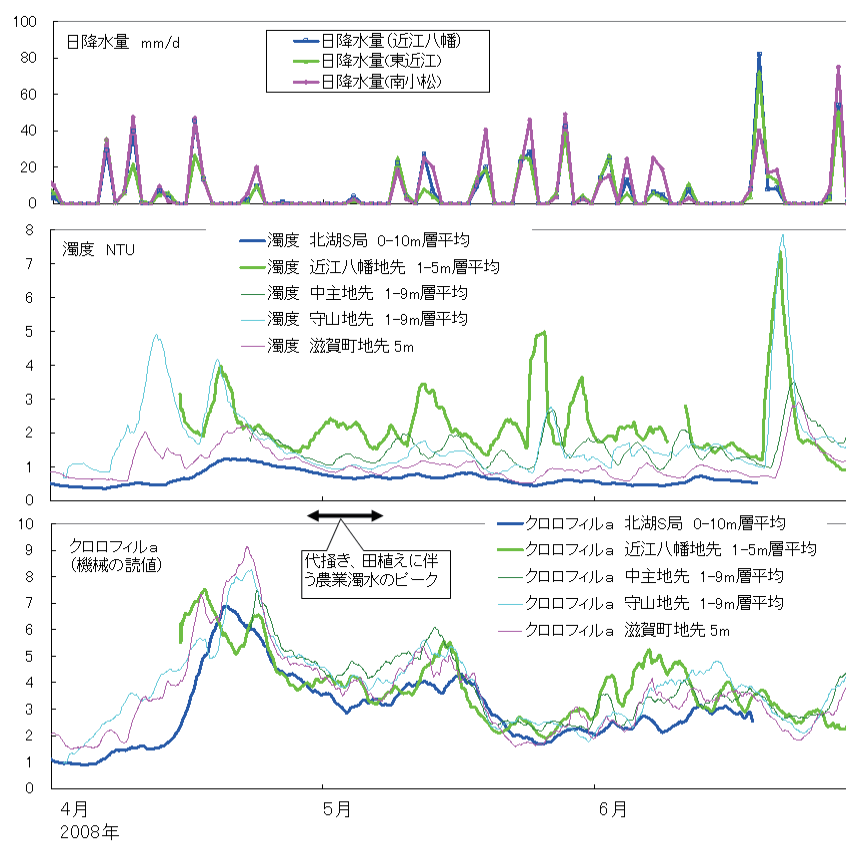


図16 北湖S局および沿岸のエリ先端部における濁度・クロロフィルaの変化
(2008年4～6月)

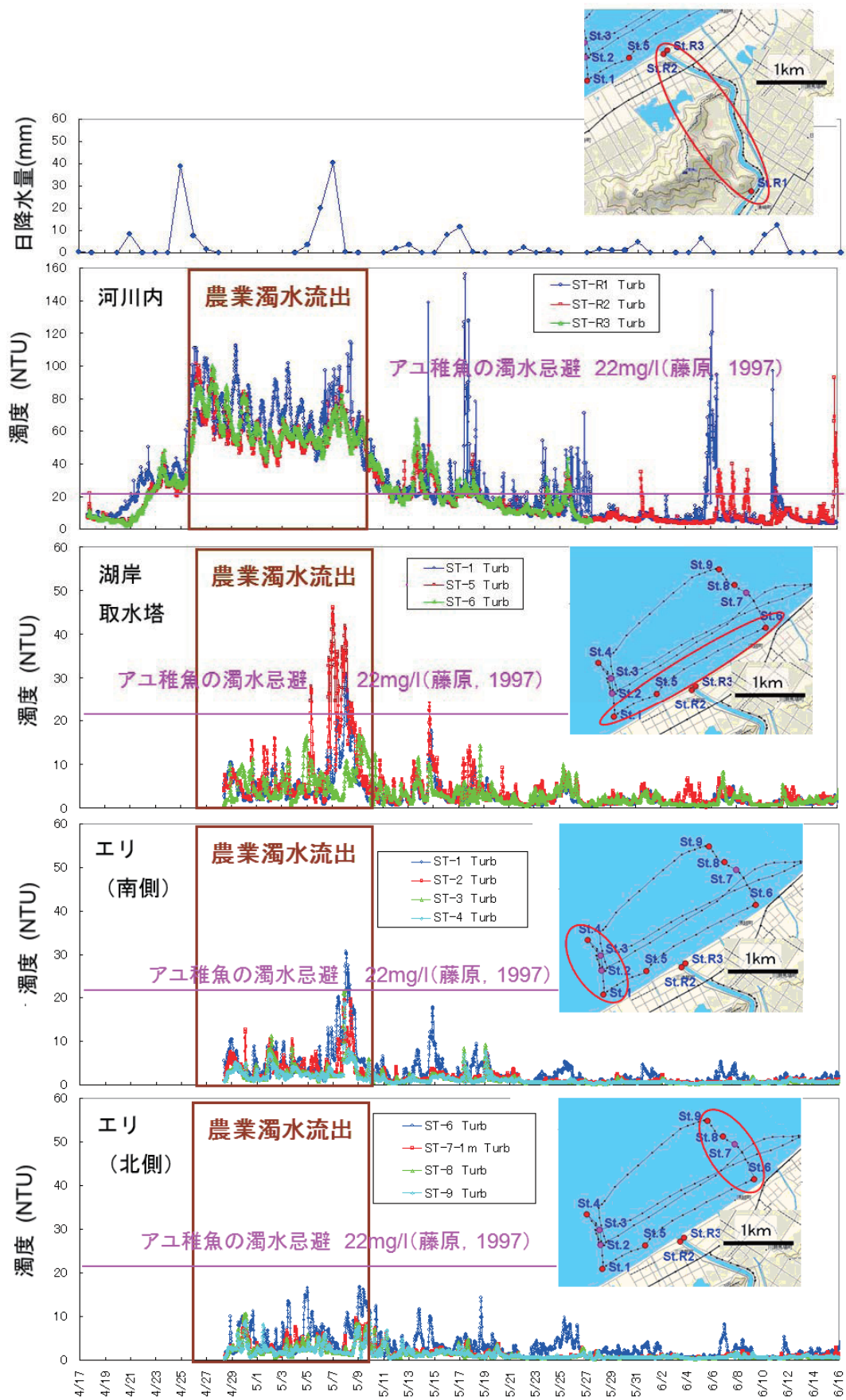


図 17 宇曽川河口周辺における濁度の変化 (2009 年 4~6 月)

琵琶湖の低酸素化の実態把握および北湖生態系に与える影響の把握に関する解析モニタリング

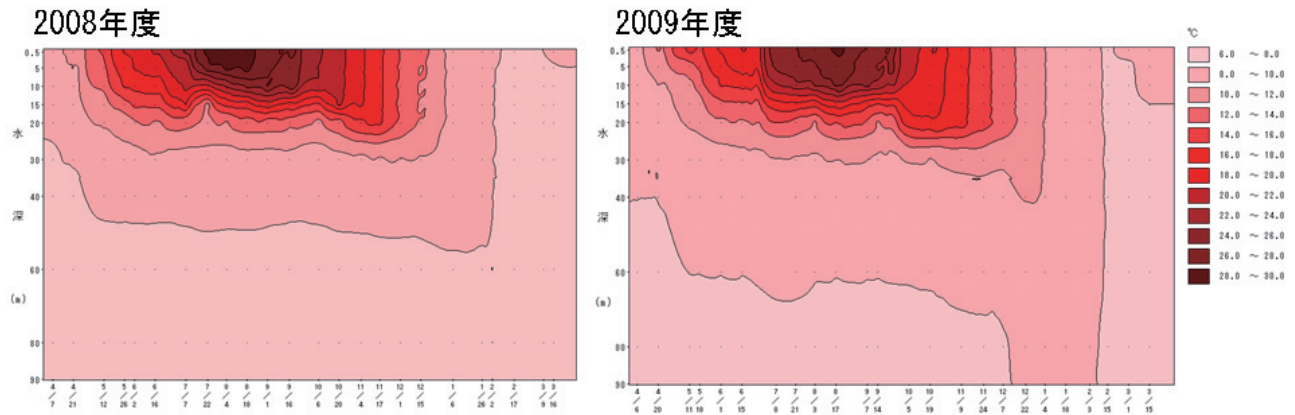


図5 今津沖中央定点（C点）での水温の鉛直分布の時間変化

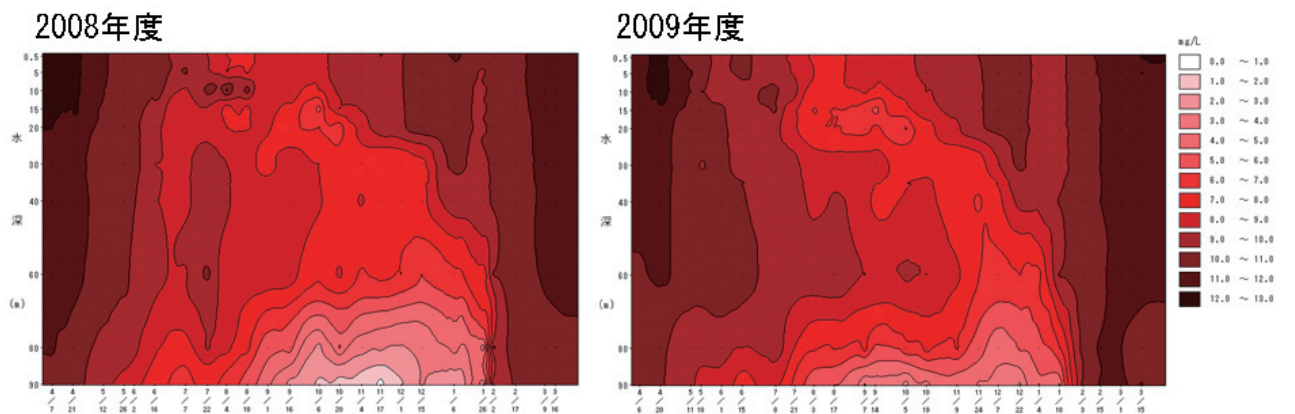


図6 今津沖中央定点（C点）での溶存酸素濃度の鉛直分布の時間変化

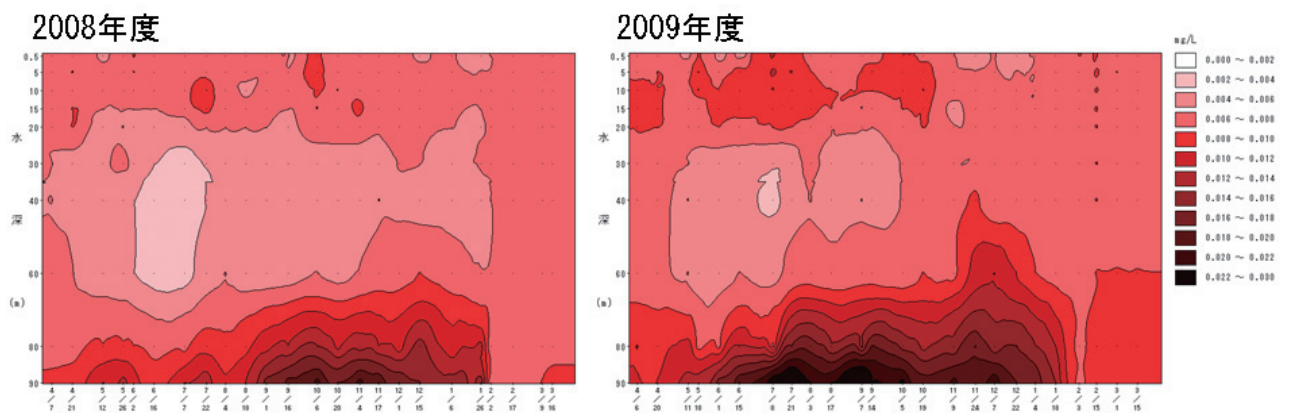


図7 今津沖中央定点（C点）での全りん濃度の鉛直分布の時間変化

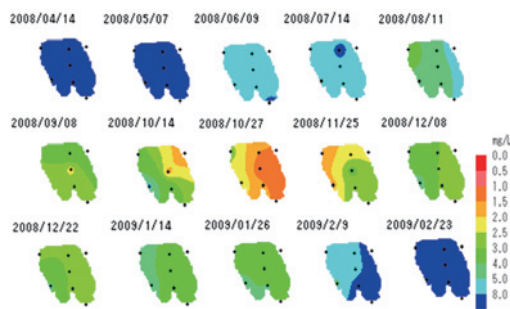


図 10 第一湖盆の水深 90 m の溶存酸素濃度の平面分布の時間変化

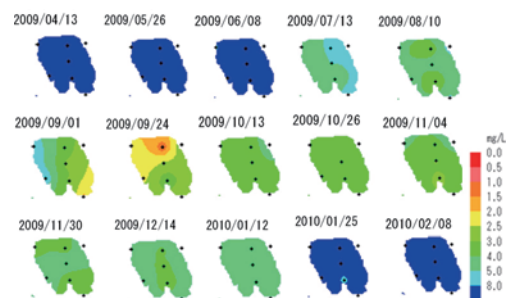


図 11 第一湖盆の水深 90 m の溶存酸素濃度の平面分布の時間変化

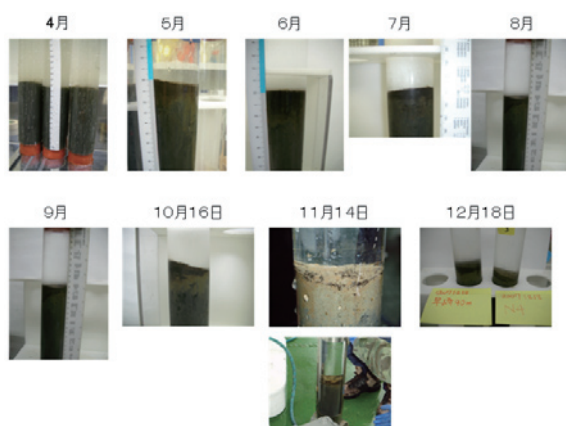


図 18 HY 地点における底泥の変化
(2007 年 4 月～2008 年 2 月)

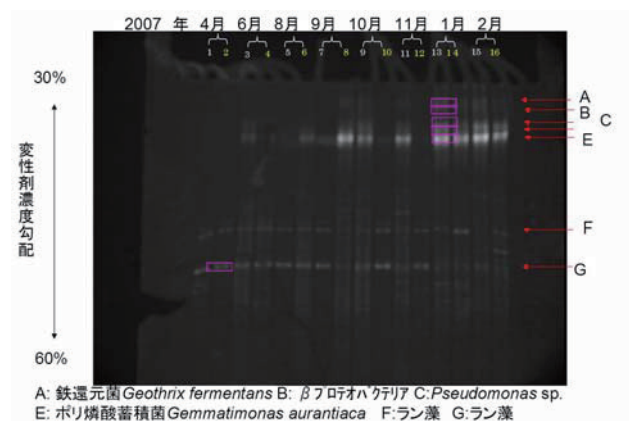


図 19 PCR-DGGE による真正細菌フローの変化
HY90 0-2 cm (左レーン), 2-5 cm (右レーン)

水環境モニタリングの最適化に関する解析モニタリング ～多目的を考慮した琵琶湖水質モニタリング地点の最適配置～

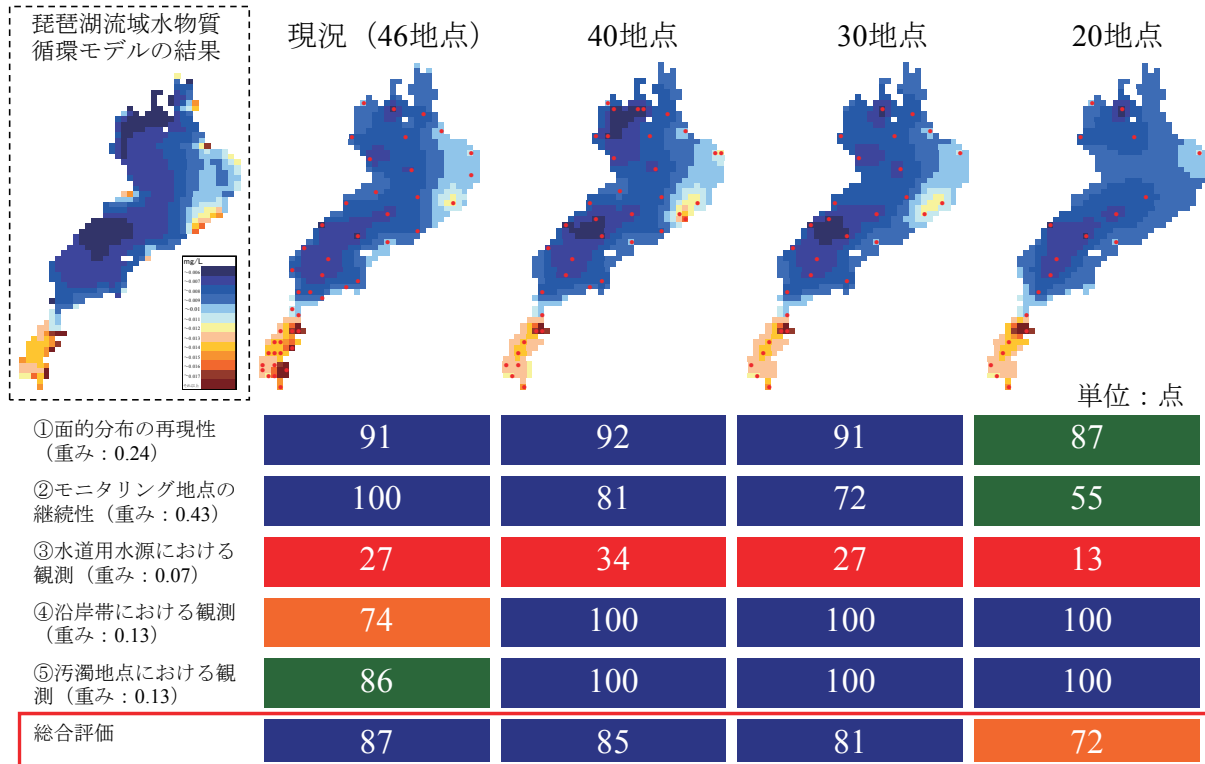


図9 観測地点数ごとの最適配置と評価値

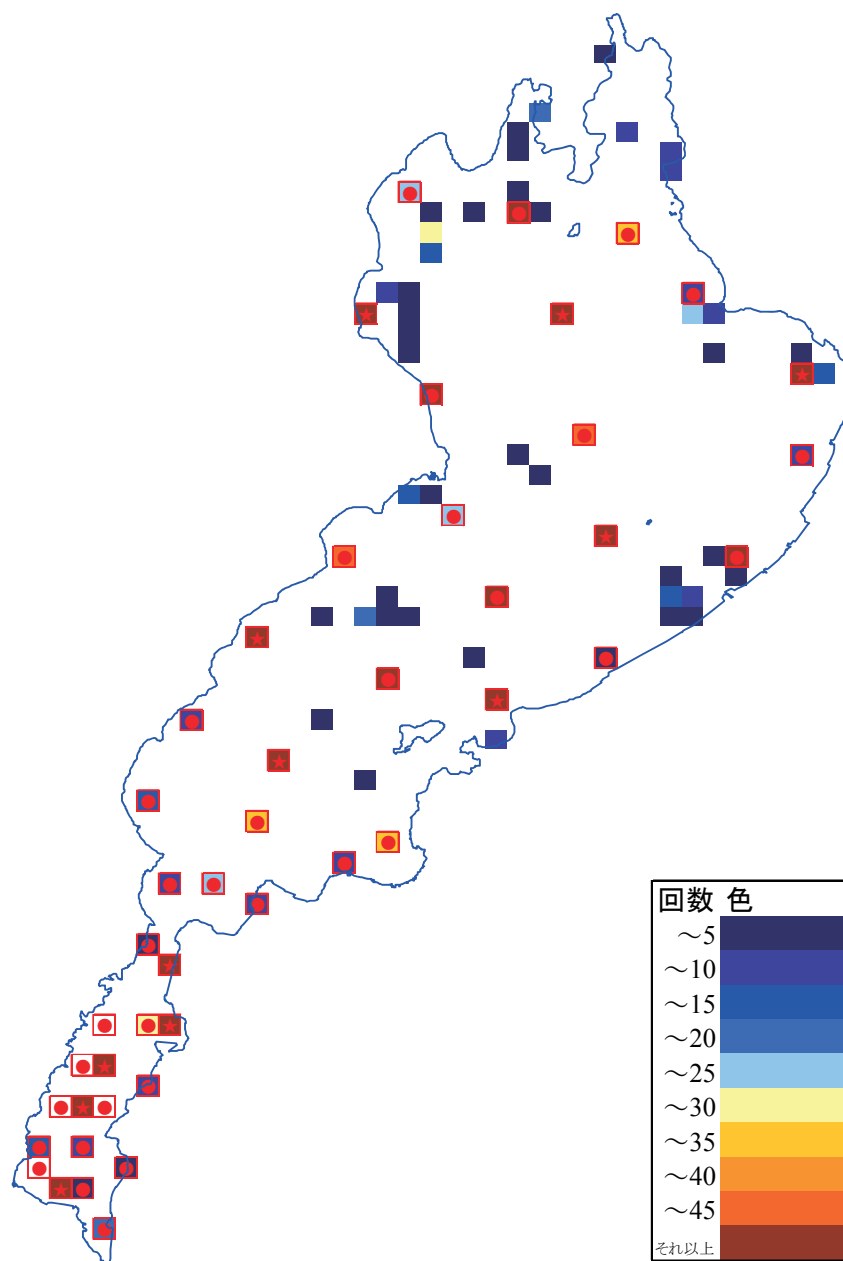


図 10 50 回の繰り返し計算のうちモニタリング地点として選択された回数（★は環境基準点もしくは水深別調査が実施されている地点、●はそれ以外の現行モニタリング地点）

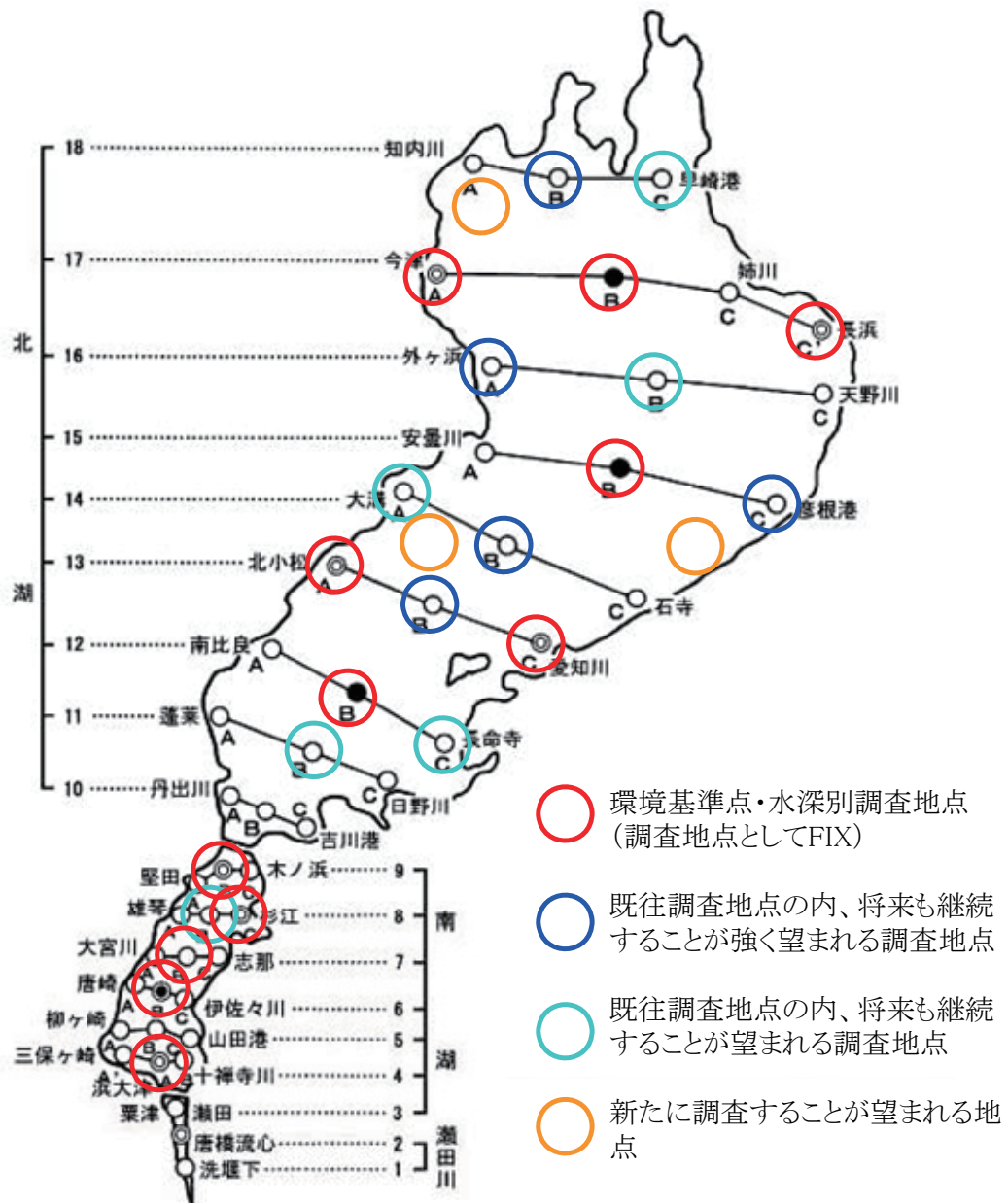


図 11 現行モニタリング地点のうち継続が望まれる地点、新たに調査することが望まれる地点

琵琶湖におけるプランクトン等の長期変動解析について — 植物プランクトン —

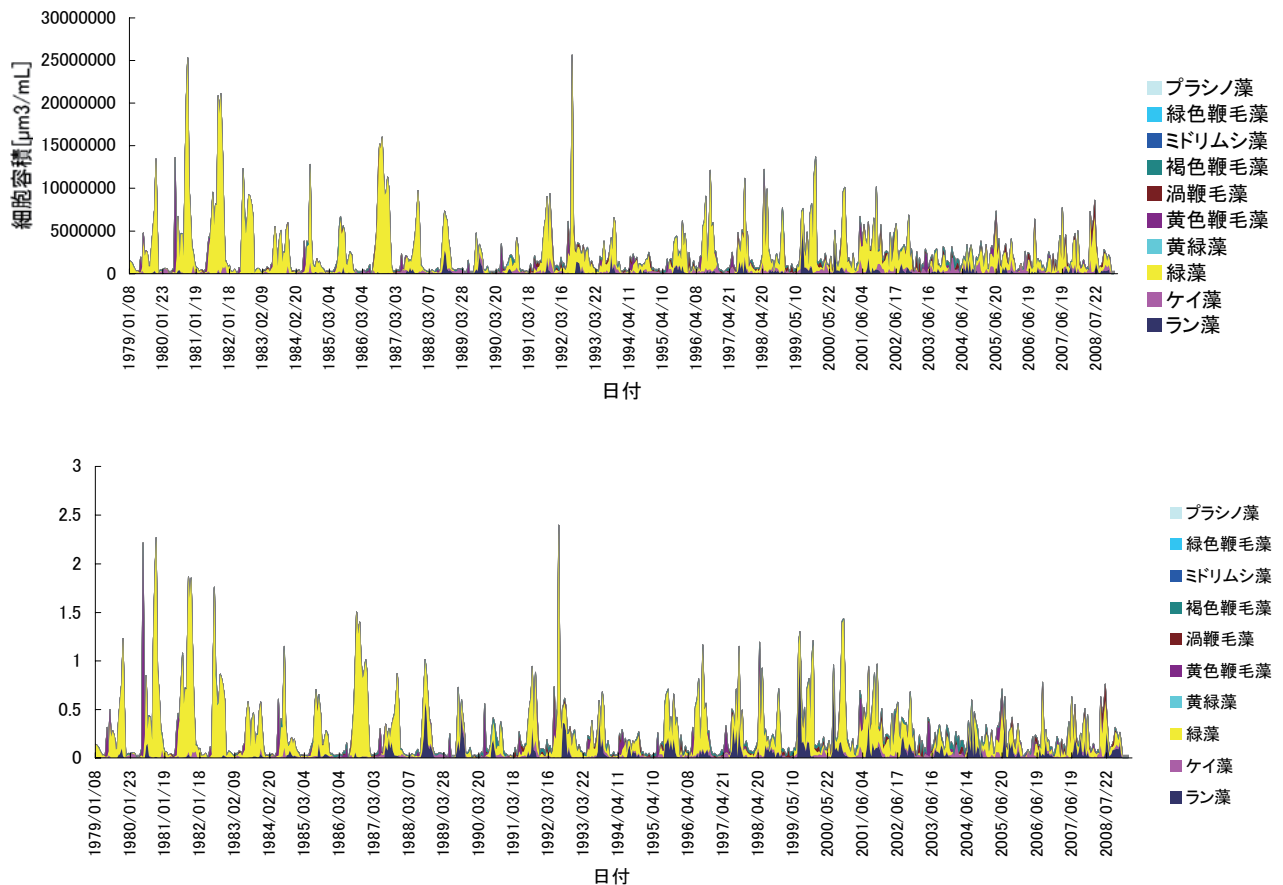


図1 琵琶湖北湖今津沖中央地点（17B）表層 0.5m の植物プランクトンバイオマス経時変化
（上図：細胞容積[$\mu\text{m}^3/\text{mL}$]、下図：炭素量[mgC/L]

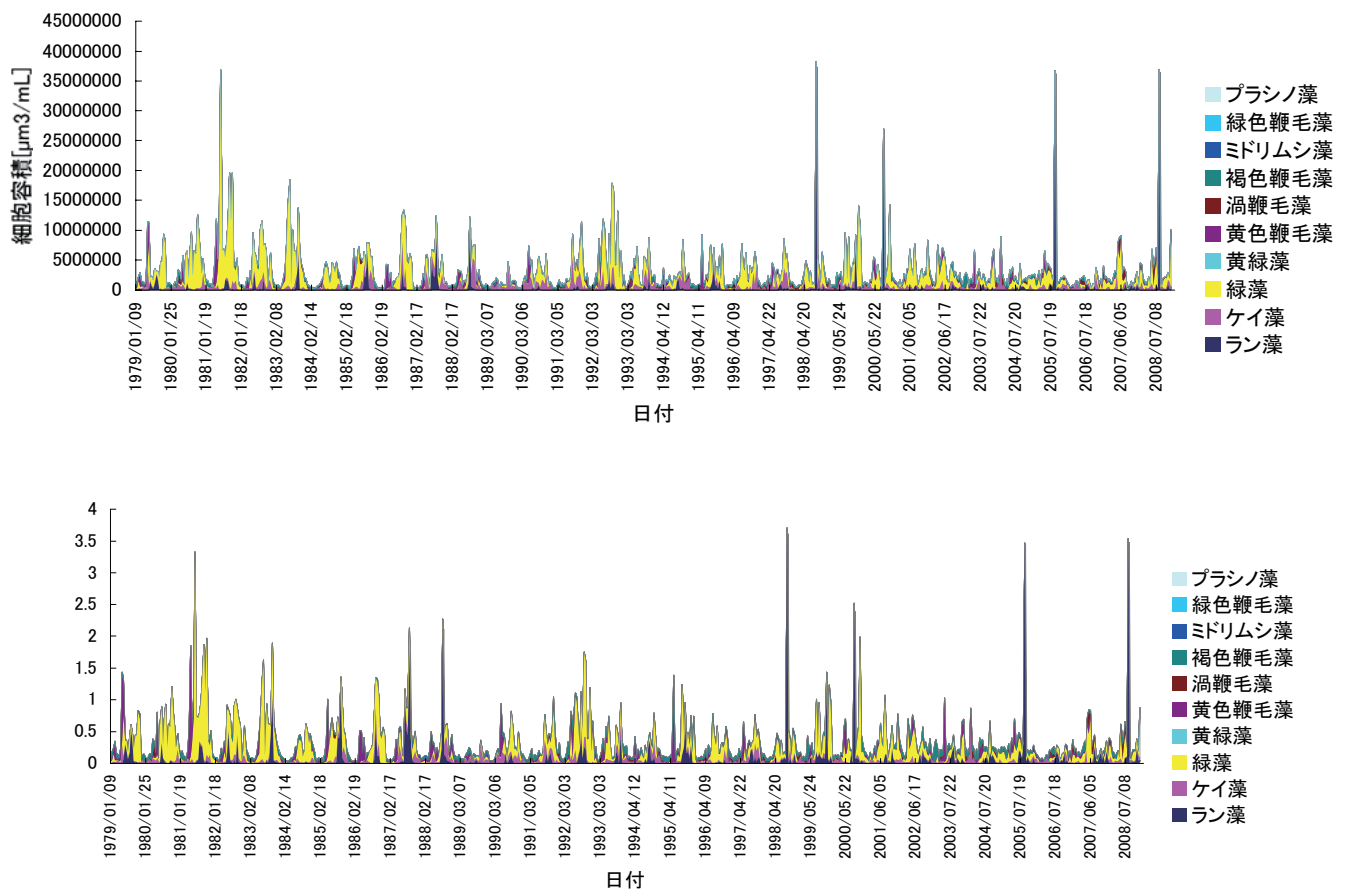
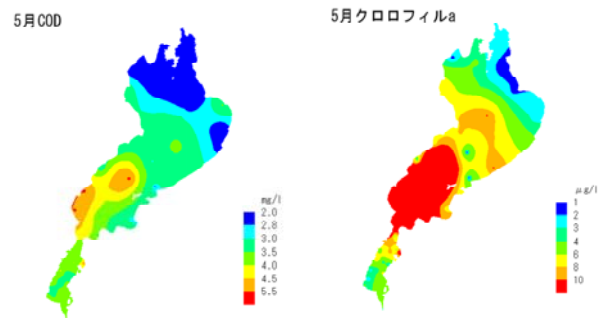


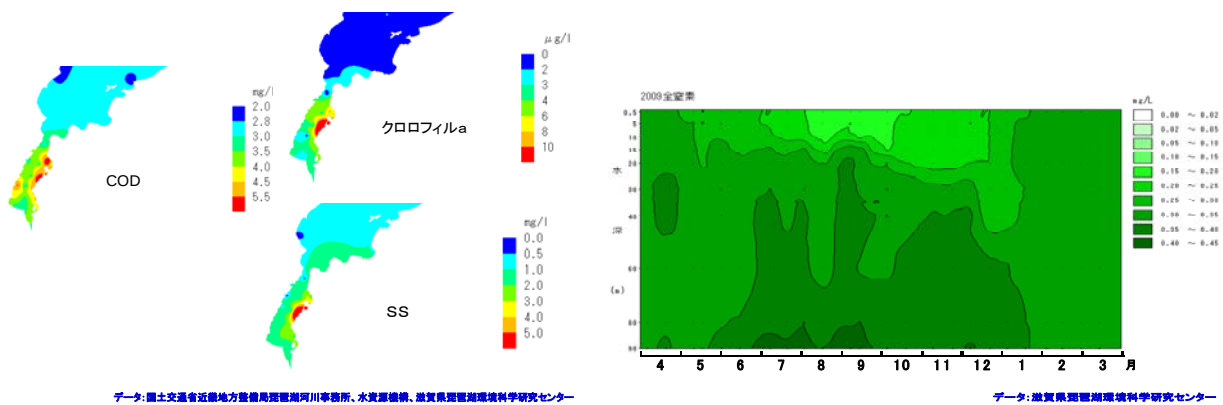
図2 琵琶湖南湖唐崎沖中央地点（6B）表層 0.5m の植物プランクトンバイオマス経時変化
（上図：細胞容積[μm³/mL]，下図：炭素量[mgC/L]）

平成 21 年度(2009 年度) 琵琶湖水質環境基準点調査



データ: 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、水資源機構、滋賀県琵琶湖環境科学センター

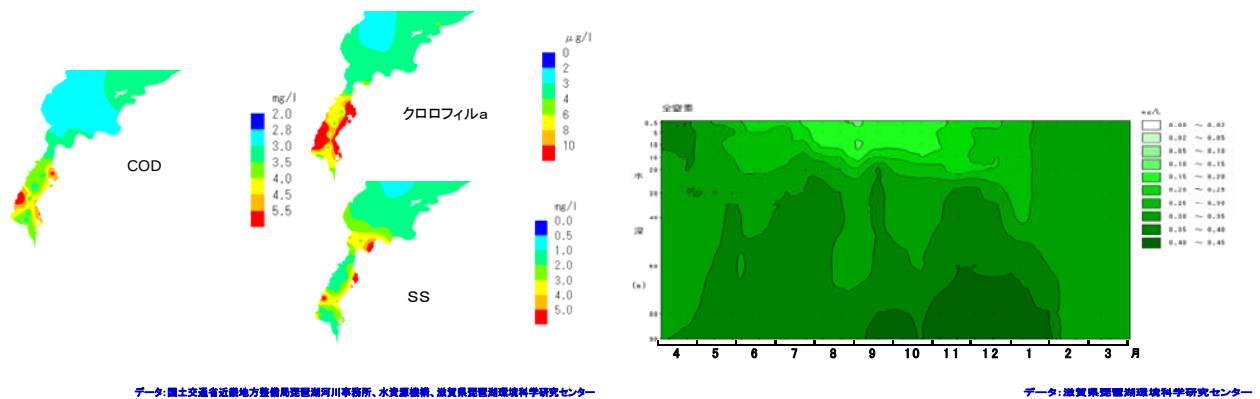
図 14 5 月の水質状況（平面分布）



データ: 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、水資源機構、滋賀県琵琶湖環境科学センター

図 20 9 月の水質状況（平面分布）

図 28 今津沖中央の全窒素の鉛直分布の経月変化



データ: 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、水資源機構、滋賀県琵琶湖環境科学センター

図 21 10 月の水質状況（平面分布）

図 29 今津沖中央の全窒素の鉛直分布の経月変化
(2008 年度)